

○三木 洋一郎<sup>1</sup><sup>1</sup>高知大医

チーム基盤型学習法 (Team-Based Learning, TBL) は、学生数 100 人超のクラスでも教員 1 人が教育効果の高い授業を行えるように開発されたグループ作業中心の教育手法で、米国を中心にさまざまな教育分野に適用されている。TBL 形式の授業は、学習テーマごとに 2 コマから数コマをかけて「事前資料による予習→確認テストと補足説明→応用課題 (グループ作業) と全体討論」の順に進行し、この基本形がコース (授業科目) の中で数回繰り返される。学習グループが高いパフォーマンスを発揮するためには、協働を意識したチームへ変容する必要がある。このため、長期にわたってメンバー固定が原則であり、コース終了時にメンバー同士でピア評価を行い、グループ学習に対する貢献度を成績に反映させることが必須とされている。講義中心の授業に対する優位点として、学生主体の能動的学習が実現できる、学習者が学習に対する自らの責任を意識する、チームでの協働の大切さを認識する、討論を通じてコミュニケーションスキルを身につける、などが挙げられる。また、基礎と臨床を統合しながら学ぶことができる点で、医療専門職教育や職種間連携教育に最適である。チュートリアル教育もこれらのメリットの多くを共有しているが、わが国では人的資源の確保が深刻な課題となるため、近年 TBL はチュートリアル教育を補完もしくは代替する手法として、医学、看護学、歯科医学等の分野で急速に広まりつつある。講演では、TBL の理論的背景、形式、TBL を成功に導く鍵について概説する。